

学内広報

for communication across the UT



特集：



130TH
THE UNIVERSITY OF TOKYO

本学ヨット部、

世界選手権に出場！

2007.7.11

No. 1361

この度、本学運動会ヨット部クルーザー班は、メキシコ合衆国で行なわれた「J/24世界選手権大会」への出場を果たし、晴れて、凱旋しました。クルーザー班は昨年10月の「J/24関東選手権大会」にて優勝した後、同11月の「J/24全日本選手権大会」でも見事7位に入賞。これにより世界選手権への出場権を得、メキシコ大会への出場を果たしました。今回の特集では、世界選手権での彼らの活躍をご紹介します。



1

大会準備（国内）

本年のJ/24級世界選手権はメキシコ合衆国のリゾート地Puerto Vallartaで、3月1日から10日にかけて開催されました。東京大学からは運動会ヨット部クルーザー部門の6人に加え、同部門の中台周一（教養学部1年）、部OBの飯田修一（大学院数理科学研究科博士課程2年）、廣田雅士（文学部4年）、江崎五郎（大学院農学生命科学研究科修士2年）の4名が他チームから個人参加致しました。

ヨット部のJ/24級世界選手権への挑戦は、1999年のイタリア（ジェノヴァ）大会、2005年のイギリス（ウェイマス）大会に続き、今回が3回目となります。今年は全日本選手権で歴代最高位を収めたこともあり、チームの力が世界の舞台でどこまで通用するのか、まさに挑戦の年でした。資金調達は遠征実現のための最大の課題でしたが、幸い東京大学「創立130周年記念事業」への採択が決定し、東京大学の公式イベントの一環として参加することになりました。

遠征に際しては、メインセーラーに「東京大学The University of Tokyo」の文字を入れるとともに、艇側面には「知の生命体」のステッカーを貼り、東京大学を世界にアピールしました。

参加メンバー紹介



平出篤志

世界選手権への出場は、入部以来、ずっと抱き続けた夢でした。最初は漠然としていた目標が、学年が上がるにつれて少しずつ形あるものになってゆく過程、そして夢にまで見た世界選手権の大舞台、今振り返ってみてもとても充実した4年間でした。

- 工学部4年生(大会当時)
- チーム役職: 総責任者
- ポジション: タクティシャン



2

大会準備（渡航後）

今回の遠征ではレース艇をチャーターする方針でした。インターネットなどで艇を探したのですが、メールを送ってもなかなか返事が来ないなど苦労しました。そこで、メキシコ在住の本学卒業生の方々にお願いし、現地のヨット仲間を通じてやっとコンタクトをとることができました。チャーターが決まったのは年末ぎりぎり、オーナーのMiguel氏とチャーター契約を締結しました。



齊藤周平

慣れないチャーター艇や、非常に高いレベルの艇団の中で、現在のチームの力は出せたと思っています。世界のトップとも直接競う中で、技術を吸収することができました。

- 工学部4年生(大会当時)
- チーム役職:艇管理
- ポジション:ヘルムスマン



宮本貴文

世界最高峰のレースという最高の舞台で、最高の友とともに、自らの最高のパフォーマンスを発揮すること...その喜びは何にも替えがたい、最高の喜びである。

- 文学部4年生(大会当時)
- チーム役職:宿泊・交通
- ポジション:トリマー(ジブ・スピン)



3

レース内容

今回はメキシコでの開催ということで、陸続きのアメリカや南米を中心に合計70チームが参加、非常にレベルの高い大会となりました。レース・コンディションは大変難しいものですが、開催国であるメキシコの選手から情報収集を行ったり、アメリカやイギリスの選手と一緒に練習することで対応しました。

大会は全10レースで行われ、順位はそれぞれ45-40-43-56-33-33-(60)-26-21-22位、総合で参加70チーム中40位でした。総合順位は前回イギリス大会と同じでしたが、5日間の長丁場のなか体力・集中力・モチベーションを常に高いレベルで維持し、日々の課題を修正して終始順位を上げていくレース展開には満足しており、これまで養ったチーム力を遺憾なく発揮できたと思います。



高桑宏之

ヨットを「共通言語」として、外国人セーラーたちと交流できたことが、一番の思い出です。来年のイタリア世界選手権も狙っていきますのでよろしくお願いします！

- 法学部3年生(大会当時)
- チーム役職: 会計
- ポジション: パウマン



西村彩子

世界のトップレベルの方々と競うことができた経験をしっかりと後輩達にも伝えて、今年も仰秀をより強い良いチームにしていきたいです。

- 工学部3年生(大会当時)
- チーム役職: 渡航・保健
- ポジション: ガイトリマー



4

国際交流

今回の大会では大会期間中を通じてたくさんの海外セーラーとの交流を持つことができました。大会常連の中には、一昨年のイギリス大会に出場した“University Team”の存在を覚えていた人もいました。世界のトップセーラー達と交流できたのは大変貴重な経験でした。この他にも、カナダのチームと「カラテ（空手）」について盛り上がり、チリやウルグアイのセーラーと渡航時間の長さを競ったり、様々な国の選手と話をすることができました。なかでも開催国メキシコのチームの選手達はとても陽気で、会場や洋上、また試合後のパーティーを通じて、とても親しくなりました。



松屋優介

メキシコに行って得られた様々な経験を生かしつつ、次の世界選手権にも出場してさらに上の成績を狙っていきたいです。

- 教養学部2年生(大会当時)
- チーム役職: 広報
- ポジション: マストハンド

今回の遠征はもちろんのこと、日頃の活動も含めて私たちヨット部の活動は非常にたくさんの方々への応援とご協力に支えられて成り立っております。今回の遠征を通じて改めてその後ろ楯の大きさを実感し、この場を借りてみなさまに厚く御礼申し上げます。現在も部員・OB一同、次回の世界選手権を目指して練習・指導に励んでおります。今後ともよろしく申し上げます。

(ヨット部前主将 平出篤志)

問い合わせ先: 本部学生支援グループ体育チーム
内線22510、22509

NEWS

一般ニュース

本部総務グループ

本部事務組織体制の再編後の各グループ主要業務

新たな本部事務組織体制が、この7月からスタートしました。この再編は、法人としての戦略的企画立案機能と大学としての教育研究推進機能の双方について、事務体制の強化を目指したものです。

《グループが基本単位に》

新組織体制は、従来の部課制に代わり、「グループ」が基本単位となります。仕事の内容に応じ意思決定の段階を縮め、より迅速に業務を執行できるよう、グループ長とグループ員の2段階（チームを置く場合、チームリーダーを含め3段階）にラインを簡素化し、組織のフラット化と柔軟化を徹底します。グループ長が業務管理、人事管理を適切に行えるよう、標準的なグループは5名～15名により編成し、グループ内の人員配置やチーム構成は、状況変化に応じグループ長が自由に設定できます。

《全学の業務執行と人材育成の共通単位＝系》

本部事務組織の役割は、総長、理事等を支え本部固有の業務を行うことは当然として、それぞれの担当業務分野について、全学の業務執行状況の改善に取り組むとともに全学の人材養成を図り、部局と一体となって当該分野に責任をもつことです。教育・学生支援、研究推進、国際、人事、財務など業務の系統ごとにいくつかのグループを「系」で括り、統括長を置きます。この「系」が、全学の業務執行と、職員の専門性を育てる人材育成の単位となります。

《業務本位の組織再構築》

今回の組織再編は、組織の形式を変えるだけでなく、仕事の進め方を変えること、人材養成の方法を変えるこ

と、評価の実施に適した組織とすることを目指しており、平成20年4月の新たな人事評価の本格実施により、法人化以後の組織見直しについて一定の到達点に達することとなります。今後は、本部と部局、部局相互の事務の連携、共通化についても、この本部事務組織の再編で示された業務分野の「系」ごとに全学的にどのようなあり方が望ましいか設計していく必要があります。

なお、再編後のグループ及び各グループの主要業務については、次のとおりです。

○本部事務組織

－教育研究推進業務－

- ・教育・学生支援系
 - 学務グループ
 - 学生支援グループ
 - 奨学厚生グループ
 - キャリアサポートグループ
 - 留学生支援グループ
 - 入試グループ

- ・研究推進系
 - 研究推進グループ
 - 研究機構等支援グループ
 - 総合研究博物館グループ

- ・産学連携系
 - 産学連携グループ

- ・国際系
 - 国際企画グループ
 - 国際連携グループ
 - 学生交流企画グループ

- ・環境安全系
 - 環境安全グループ
 - 安全衛生グループ

- ・情報系
 - 情報化推進グループ
 - 情報基盤グループ

－法人業務－

- ・経営・企画系
 - 秘書グループ
 - 企画調整グループ
 - 業務改善グループ

- ・総務・法務系
 - 総務グループ
 - 広報グループ
 - 渉外・基金グループ
 - 卒業生グループ

- ・人事・労務系
 - 人事企画グループ
 - 人事給与グループ
 - 人材育成グループ
 - 労務・勤務環境グループ

- ・財務系
 - 財務戦略グループ
 - 外部資金戦略グループ
 - 資産経営グループ

- ・調達・経理系
 - 経理グループ
 - 調達グループ
 - 決算・財務分析グループ

- ・施設・資産系
 - 施設企画グループ
 - プロパティマネジメントグループ
 - プロジェクトグループ
 - 保全グループ
 - 環境グループ

- 監査グループ

○各グループの主要業務
 - 教育研究推進業務 -

グループ名	主要業務
学務グループ	教育改革の支援、教育企画室、学部及び大学院教務関係事務の総括、学籍管理、大学総合教育研究センター、学位授与、名誉博士の称号授与、教育・学生支援系の連絡調整・統計調査
学生支援グループ	学生生活支援、課外活動支援、学生事故、学内の秩序維持、学生行事（五月祭等）、総長賞表彰、学生の各種証明、学生団体、運動会、体育施設の管理運営、学生保険、バリアフリー支援室
奨学厚生グループ	奨学金、授業料等免除、学寮の管理運営、学生の福利厚生、生活協同組合、構内専門店
キャリアサポートグループ	キャリア形成支援（ポスドクを含む。）、インターンシップ、学生相談所、学生の相談関連業務
留学生支援グループ	外国人留学生の受入れ・各種奨学金・宿舍・住宅確保の支援・福利厚生・各種証明、東京大学外国人留学生支援基金、各種奨学金による学生の海外派遣、留学生センター、統計調査
入試グループ	学部入試（大学入試センター試験、前・後期日程試験、外国学校卒業学生特別選考）の実施、学生募集・大学説明会開催等入試広報、入試情報開示、入試追跡調査、大学院入試情報把握
研究推進グループ	学術・科学技術政策に関する情報収集、科学研究に対する行動規範、研究費不正対応窓口、バイオサイエンス関連実験（遺伝子組換え実験、動物実験、研究用微生物、ヒトゲノム・遺伝子解析研究、特定胚・ヒトES細胞の使用に関する研究、遺伝子治療臨床研究、疫学研究）等の承認・申請、学術研究成果刊行助成、受託研究員等各種研究員、日本学術振興会特別研究員、寄付講座・寄付研究部門、安全保障輸出管理（研究物品の輸出入の届出承認申請を含む。）、各種調査（受託研究・共同研究・RA・客員研究員）、学術協定、COEプログラム等の推進、研究推進系の連絡調整
研究機構等支援グループ	総長室総括委員会運営管理、総長室総括委員会下の機構等の総括、本部研究プロジェクト支援、サステナビリティ学連携研究機構の執行管理・運営支援、生命科学教育支援ネットワーク及び生命科学研究ネットワークの管理・運営

総合研究博物館グループ	総合研究博物館の運営管理
産学連携グループ	産学連携推進、共同研究・受託研究等の契約法務、知的財産（発明・旧国有特許・商標・著作権等）の管理・活用、研究成果の事業化推進、産学連携関係諸規則の制定・改廃、特許管理システムの導入及び管理運営、産学連携協議会、産学連携プラザ及びアントレプレナープラザの管理運営、東京大学TLO（CASTI）との連携による知的財産の運用、東京大学エッジキャピタル（UTECH）との連携による大学発ベンチャー支援
国際企画グループ	国際大学連合（IARU、APRU、AEARU、BESETOHA等）など国際化戦略の企画立案、海外の大学との国際学術交流協定、国際シンポジウム・セミナーの開催、UTフォーラム、外国人来訪者の接遇、総長の海外出張、プレジデントカウンシルの国際関係業務、国際委員会、イェールUTラボ委員会、OUP委員会の運営管理、国際系の連絡調整
国際連携グループ	国際連携本部関係業務、東京大学基金による国際学術交流助成、文部科学省・日本学術振興会等の国際助成事業への申請手続等、北京代表所等在外事務所の運営、部局における外国人研究員の受入れ、職員の海外研修、教職員の海外渡航、外国人研究者の宿舍・インターナショナルロッジ（駒場・白金台）の管理運営
学生交流企画グループ	学生交流推進方策の企画立案、国際大学連合による学生交流プロジェクト、イェール・フォックス・プログラム等海外の大学との学生交流プログラム、短期の学生派遣及び受入れ、外国人留学生獲得の戦略推進、海外の学生に対する広報活動、留学生に対するアフターケア、留学生の同窓会活動支援
環境安全グループ	全学の安全衛生管理の把握・指導（化学物質、高圧ガス、特定機器、事故災害、麻薬等）、実験系講習会の実施、防災等に関する情報収集、環境報告書の作成、薬品管理システムの運用管理、関係官庁等の対応（申請・報告、照会・指導）
安全衛生グループ	安全衛生管理活動の企画立案、安全衛生巡視及び記録管理、作業環境測定等の管理、非実験系講習会の実施、安全衛生に関する情報収集、業務支援システムの運用管理

情報化推進グループ	情報化推進に係る企画立案、職員IT研修、情報倫理、情報セキュリティ、事務支援システムプロジェクト（人事給与、財務・管理会計、施設設備）、システムの運用管理
情報基盤グループ	共通ID管理システム、ICカードプロジェクト、個人認証システム、事務支援システムプロジェクト（学務システム）

－ 法人業務 －

グループ名	主要業務
秘書グループ	総長、役員秘書業務、総長秘書室の管理運営・庶務全般、外部機関との連携、東京大学目安箱、経営・企画系の連絡調整
企画調整グループ	東京大学アクション・プランの推進支援、諸会議（役員会、経営協議会、教育研究評議会、科所長会議、役員懇談会等）の運営整理、大学の対外戦略作成、大学経営情報の取りまとめ、大学の将来構想に関する企画立案、全学に係わる企画立案、本部横断的な案件の取りまとめ、国立大学協会との連絡調整、七国立大学の会議（役員関係）の対応、特命事項の推進
業務改善グループ	業務改善の企画立案（業務改善ワーキンググループ、業務改善ワークショップ）、業務改善の全学展開（教職員提案・自律改善登録募集、総長表彰、部局パートナー制度、分野ネットワーク制度、登録プロジェクト制度、ポータルサイト、キャリアガイド、マニュアル・年間業務計画整備）
総務グループ	大学全体の業務の総括、学内外との連絡調整（他のグループに関するものを除く）、総長選考、式典、行事（記念事業を含む。）の企画運営、プレジデントカウンシル運営、来訪者の対応、文書の接受、発送、公印の管守、本部の文書処理手続、東京大学安田講堂・山上会館の管理運営、本部棟の警備・安全管理、法人文書の情報公開、保有個人情報の開示、危機対応・法務対応の連絡調整、諸規則の制定・改廃、訴訟に係る連絡調整、中期計画・年度計画の策定、教育研究組織の設置・改廃、法人評価、組織（認証・全学センターを含む。）評価、事務組織、総務・法務系の連絡調整
広報グループ	広報誌（淡青、TANSEI、学内広報）、東京大学の概要、ホームページ運用管

	理、東京大学広報DVD、報道・取材対応、オープンキャンパス、創立130周年記念事業（知のプロムナード）、東京大学ロゴマーク・コミュニケーションマーク、本部棟1階展示、(財)東京大学総合研究会、東京大学公開講座、コミュニケーションセンター
渉外・基金グループ	東京大学基金の企画・管理
卒業生グループ	卒業生との連携強化、東京大学校友会支援業務、同窓会支援業務
人事企画グループ	人事・労務系の連絡調整、叙位・叙勲関係、人事関係の分析・企画立案、人事関係規則の制定・改廃、次世代育成支援対策関係、高齢者雇用関係、人件費の調査・分析・管理、人事関係の調査・統計・報告、人事業務改善の企画立案、人事給与システムの開発・運用
人事給与グループ	雇用制度（教員関係：任期制度含む。）関係、名誉教授選考手続関係、早期退職制度・手続関係、給与（俸給・諸手当）制度（人事院勧告分析等含む。）関係、期末・勤勉手当選考手続関係、大学院担当命免・調整額支給等関係、教職員の退職手当決定関係、退職手当清算・台帳管理関係、技術専門職等の選考関係、給与の計算・支給関係、所得税・住民税関係、人件費決算関係、法定調書作成関係、退職手当支給関係
人材育成グループ	職員の採用関係（採用試験、選考採用）、職員の人事異動関係、幹部職員の公募関係、教職員の表彰関係、職員の研修関係、職員の自己啓発活動支援関係、職員の職務遂行評価関係、障害者雇用関係
労務・勤務環境グループ	教職員の勤務時間関係、教職員の服務、兼業、倫理、懲戒関係、利益相反関係、過半数代表者関係、職員組合関係、教職員の福利厚生関係、教職員の健康管理・災害補償関係、ハラスメント防止関係、文部科学省共済組合東京大学支部の組合員・支部の運営関係、教職員からの勤務条件その他の人事管理に関する苦情相談関係
財務戦略グループ	大学財政の全体像の把握、財源獲得と学内配分の企画立案、概算要求の取りまとめ、予算の編成、予算の執行管理・統制、中長期的な財務システムの構築、本部車両の管理・運行、財務に関する情報収集及び調査、財務系の人材育成及び連絡調整

外部資金戦略グループ	外部研究資金に関する情報収集及び情報提供、外部研究資金の調査及び企画立案、戦略的な競争的資金の獲得支援、科学研究費補助金・科学技術振興調整費等の申請取りまとめ等、寄附金の受入れ、研究支援経費、研究設備の共用促進
資産経営グループ	資産（土地、建物、機器・備品等）の取得・管理・処分・除却等の財務管理（プロパティマネジメントグループの業務を除く。）、資産の寄附採納・貸付・借入、不動産登記、固定資産税、資産情報の把握、資産会計（決算処理）、減損会計、損害保険
経理グループ	金銭出納、資金管理・運用、全学の資金の支払業務、学生納付金その他の収入金の収納管理、現金・預貯金・有価証券の出納保管、本部予算執行、会計規程の制定・改廃、会計に関する訴訟事務、資金計画の策定、金融機関との取引、借入金手続、債権債務の管理、調達・経理系の連絡調整
調達グループ	調達改善の企画立案、政府調達、一括調達、本部に係る調達、契約全般（建設工事を除く。）、旅費、謝金の総括
決算・財務分析グループ	決算の取りまとめ、財務諸表作成、大学法人全体の財務会計報告、消費税の納付、財務会計システムの運用管理、財務状況把握、財務に関する調査分析、関連法人との連結決算
施設企画グループ	施設ニーズの把握及び対策、施設整備事業に係る予算執行計画、公共調達（工事）の入札・契約、埋蔵文化財調査、施設整備に関する地域連携（柏国際学術都市支援会を含む。）、施設・資産系の連絡調整
プロパティマネジメントグループ	施設の資産価値の維持向上、施設の点検・評価及び有効活用、本部共通施設等の経営、宿泊施設に関する事項、施設情報システム管理
プロジェクトグループ	キャンパスの長期計画の推進、施設整備費補助金等施設整備財源の確保、施設整備事業のプロジェクト・マネジメント、工事に係るコスト・品質管理、建築・土木・電気設備・機械設備に関する技術的事項
保全グループ	長期修繕実施計画の推進、施設の保守点検・運転監視・修繕・緑地管理等に関する技術的事項、本郷キャンパスの保全業務及びインフラの維持管理、本郷キャンパスの美化

環境グループ	サステナビリティ・キャンパスの推進、温暖化・省エネルギー対策、インフラ整備の企画・立案、交通対策、屋外環境整備、廃棄物処理
監査グループ	内部監査の計画立案・実施、監事監査との連携、公益通報等の連絡・調整

本部キャリアサポートグループ

一般

知の創造的摩擦プロジェクト第4回
交流会開催

6月9日（土）本郷キャンパス御殿下ジムナジウムにおいて、知の創造的摩擦プロジェクト第4回交流会「一歩先の自分を描く」が開催された。

これは各業界の企業、あるいは自由業、自営業で活躍する本学の卒業生との交流を通して、本学学生のキャリア形成支援を目指す大学主催のイベントで、一昨年10月の本郷キャンパスでの第1回、昨年の駒場Iキャンパス、本郷キャンパスでの各開催に引き続く第4回目となる。今回は約130名の卒業生と約350名の学部・大学院学生が参加した。

午後1時、開会にあたり平尾副学長（卒業生室長、キャリアサポート室長）は、創立130周年にあたり「全学をあげて卒業生との触れ合いを一層密に」と企画している本年に、卒業生が多数参集されたことの意義を称えて謝意を表された。さらに、「これを機に各自のキャリア形成への意識が一層高まることを期待している」と述べられ、学生を励まされた。また、続くグループディスカッションでは、副学長自身、会話の輪に入れられ、卒業生、学生らの声に耳を傾けられた。



会話の輪

第一部はグループディスカッション形式。「新しいものを生み出したい!」、「生きた証を残したい!」などの10のサブテーマのもと、1つのサブテーマごとにさらに5つの輪に分かれて卒業生に着席してもらい、学生は好きな輪を選びそれぞれの輪で卒業生、学生が入り混じって議論、討論した。50分を1ラウンドとして休憩をはさ

み、合計3ラウンド、そのたびに卒業生と学生のメンバーを入れ替えて繰り返すことによって、さまざまな出会いが生まれることを目指している。

第二部は、ところを中央食堂に移して午後5時半から、今度は卒業生に所属する業界別に分かれてもらい、特にテーマを絞ることなく学生とのフリーディスカッション方式。懇親会を兼ねながら約1時間半、なごやかに会話の輪が広がった。



副学長も輪に入れられ・・・

前3回に引き続き交流会の企画、運営等は、卒業生有志の集い「東京大学三四郎会」と、本学学生サークル「東大ドリームネット」の多大なる協力のもとに行われたものである。今後も交流会にとどまることなく、学生と卒業生がともに主体的に参画する、いわば「東大コミュニティ」として、交流の仕組みの熟成が望まれるし、少しずつそれにむけて動きだしていることが窺える今回の盛況であった。

本部学生支援グループ 調理者研修会開催される

一般

学生部では例年、保健体育寮（スポーティア）および検見川総合運動場の夏季繁忙期を前に「調理者研修会」を開催しております。

これは、利用者の皆様に安全でより充実した食事を提供するために、各施設の調理従事者が一同に会して行われるもので、今年度も6月20日（水）に検見川セミナーハウスにおいて実施されました。

研修会ではまず、栗本孝子講師（管理栄養士、生活支援課厚生チーム）により、食中毒の防止や食材の保存法など衛生管理の実際についての講義が行われました。



栗本講師（左奥）と熱心に講義を聴く参加者

および「ワンプレートディッシュ」（1つの皿に主菜、副菜、ご飯・パンなどが盛り付けられた、コンパクトながらボリュームのある食事）の調理実習が行われました。



自慢の料理に活き活きと腕を振るう

各施設自慢の料理を盛り付けたワンプレートディッシュは、目にも楽しく、食べても大満足の出来栄で、試食は大いに盛り上がりました。



料理の一例（奥から反時計周りに、鶏肉のポテト衣焼き、野菜とパブリカのサラダ、えびの豆腐衣揚げ、ナス田楽、トマトスープ）

今回の研修は調理者の意識向上に大いに役立ったと思われま

す。皆様も、この夏は各保健体育寮や検見川総合運動場をご利用いただき、この研修会での成果をぜひ体感して下さい。管理人一同、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

ご予約・お問い合わせは学生支援グループ体育チーム(内) 22510まで。

柏地区事務部
柏キャンパスに新食堂がオープン
一般

柏キャンパスの増大する教職員、学生のニーズに答えるため、7月2日に2番目の食堂『プラザ 憩い』が、柏図書館北側にオープンしました。柏キャンパスには、研究所、センター、大学院が相次いで移転しており、これにより学生数が大幅に増え、人口分布も東西に広がってきました。既存の食堂(カフェテリア)では席が不足し、移動も不便という状態になりました。昨年度、キャンパス西側に環境学研究棟が完成すると同時に、1階に仮設弁当売場が作られ、併設して新食堂の建設が始まりました。



竣工となった『プラザ 憩い』

完成した食堂は、ガラス張りシースルーの建物です。キャンパス計画では、この周辺は「街」と呼ばれ、にぎわいのある帯状のゾーンとして位置づけられています。東端のロッジ(宿泊施設)からカフェテリア、生協(喫茶、食料品、雑貨)、生協(文具、書籍)、保健センターと並び、西端に新食堂が建設されたこととなります。収容人数は約200名で、テイクアウト、パーティー料理のケータリング、お好み焼きなどのライブメニューも用意されています。

食堂名称の『プラザ 憩い』は、キャンパス内で名称を募集し、多数出された案の中から、親近感、スマートさ、国際性などから選定されました。コミュニケーションをとり、皆が憩える場所という思いが込められています。



オープン前の試食会

部局
ニュース

大学院法学政治学研究所・法学部、大学院公共政策学教育部
留学生見学旅行を実施
部局

6月7日(木)・8日(金)の2日間、法学政治学研究所・法学部と公共政策学教育部が合同で留学生の富士山・河口湖見学旅行を実施した。参加者は、留学生30名、引率の教職員4名の計34名であった。

富士山は、旅行後のアンケートで毎回行き先として人気が高かったため、今年の訪問先に決めた。



富士山五合目で集合写真

今年の参加者は、富士山への期待が大きいか時間には正確で、集合時間10分後の8時40分に大型バスで本郷キャンパスを出発できた。途中の富士スバルライン沿いの新緑がとてもまぶしかった。富士山五合目で釜飯を食べ、登山口まで行ったり、富士山をバックに記念撮影をしたり、それぞれ自由に楽しんだ。その後、富岳風穴(ふがくふうけつ)を見学し、河口湖畔で1時間くらい休

憩してから、河口湖そばの旅館に到着した。夕食後の懇親会では、まず10人で手をつないで大きな輪を作り「人間知恵の輪」(写真参照)でリラックスした後、チーム対抗のゲームで盛り上がった。



人間知恵の輪

懇親会がお開きになると、しゃべり足りない人たちは、宴会部屋に集い、温泉を楽しみにしていた人は、温泉風呂に向かっていった。

翌朝は、9時にホテルを出発し西湖見学。童心に戻って石投げをして遊んだ。昼は、西湖いやしの里・根場(ねんば)で5、6人のグループに分かれ「ほうとう」調理実習を体験した。慣れない手つきながらも、みんなで協力して作ったほうとうは、本当においしかった。満腹になった後、河口湖クラフトパークに移動して、サンドブラスト(表面に砂などの研磨材を吹き付ける加工法)でガラスのコップに各自デザインを施した。思い出の作品ができて、どの学生も嬉しそうだった。帰りの交通も順調で、予定どおり午後5時に大学に到着し、全員笑顔で解散した。



ほうとう作り

参加者に印象に残ったことを尋ねると、富士山を訪れたことが圧倒的に多く、次にサンドブラスト体験、ほうとう作りと続いた。雨の多いこの時期、奇跡的に2日とも雨に遭うことなく美しい富士山の全景を間近で見ることができた。日本の大自然に触れ、共通の体験を通じて親睦も深まって、みな楽しく有意義な時間を過ごすことができた。

大学院工学系研究科・工学部、大学院情報理工学系研究科
工学系等地震訓練が行われる

6月18日(月)昼休みに、工学系等(工学系研究科、情報理工学系研究科、工学部、VDEC、IML)において地震訓練が実施された。訓練は全員参加であり、教職員、学生など約2800人が参加した。地震訓練は平成11年度から毎年度行われており、今回で9回目の実施となる。今年度の訓練では、昨年度指摘された問題点を考慮し、講義中の学生も訓練に参加する、安全カードを用いた安否確認を行う、といったことを新しく試みた。その結果、参加人数が昨年の約2300人より大幅に増加した。

訓練では、突発地震発生時の対応行動訓練を目的とし、地震発生時の対応マニュアルに沿った、初期対応→緊急対応→避難→安否確認、という地震発生時の行動が、号館対策部(各建物の対策本部)と工学系等対策本部の間で連絡を取りながら進められた。



避難・安否確認訓練中の参加者

11時40分の「訓練地震発生!」という一斉放送により訓練が始まった。まずは初期対応。身の安全を図り、火の始末、そして避難路を確保する。続いて各号館に対策部が設置され、緊急用PHSを用いた各号館と本部との連絡が開始された。さらに、各号館で想定された被害(火災やけが人の発生など)に応じて緊急対応を取りながら、号館ごとに指定された避難場所へ避難。講義中の学生も初期対応をとった後、教員の引率で避難を行った。この間、号館対策部は本部に逐次状況を報告し、本部では連絡を受けた内容を記録係がボードに記入することにより、全体の状況を把握した。最後に、各避難場所で、工学系等の全構成員が携帯している安全カードを用いた安否確認が行われ、訓練が終了した。終了後、本部長代理の中尾安全衛生管理室長、地震対策専門委員の塩原准教授(建築)、避難行動の専門家の関沢教授(都市工)、本郷消防署の久保田予防課長の講評が一斉放送で参加者に伝えられた。

今年度は、講義中の学生も初期対応および避難訓練に参加した。また、安全カードを用いたことにより、比較

的スムーズに安否確認を行うことができた。しかし、条件によっては一斉放送が聞こえにくかったなどの問題点の指摘もあったので、来年度以降の課題としたい。



対策本部（列品館）で号館対策部からの連絡を受ける



各号館から受けた連絡事項を本部のボードに記入する

また、関連行事として本郷消防署による体験型防災訓練が同日12時20分～14時に工学部1号館前広場で実施され、多くの地震訓練参加者が引き続き参加した。地震の少ない地域からの留学生も激しい地震のゆれを体験できるなど、好評であった。

生産技術研究所

毒劇物を取扱う研究室にて所長巡視を実施

生産技術研究所では6月19日（火）、毒物・劇物を取り扱う研究室を対象として、所長による立ち入り巡視を行った。

環境安全本部からの「毒物または劇物を保有する全研究室に対する部局安全衛生管理室による立ち入り調査実施」の依頼を受け、10品以上の毒物を所持する7研究室を巡視したものである。

巡視メンバーは、前田正史所長と荒木孝二安全衛生管理室長、安全衛生管理室スタッフ6名、環境安全本部スタッフ1名の計9名だった。



所長室で行われた巡視打ち合わせの様子

巡視は、各研究室の担当教職員が立会うなか、毒物および劇物取締法に定められた試薬の分別保管や表示、保管庫の鍵の施錠管理、薬品使用記録簿の整備などについて行われ、おおむね適切な管理が行われていることを確認した。

少数のケースについては、その場で不備を指摘し、研究室の担当教職員が速やかに適切な改善を行うことが確認された。

なお、毒物・劇物を取り扱う他の研究室については、6月26日（火）・27日（水）の両日、安全衛生管理室スタッフによる立ち入り調査を行い、管理が適切であることを確認している。

今回対象とした毒劇物以外でも、さまざまな有害薬品を適正に管理しつつ、危険な作業の安全性を図っていくには、研究室それぞれが高い安全管理意識をもつことが欠かせない。今回の巡視は意識高揚の契機になるものと期待している。

大学院人文社会系研究科・文学部

外国人留学生・外国人研究員等との懇親会開催される

6月20日（水）18時から、山上会館地下食堂において、人文社会系研究科・文学部主催の外国人留学生・研究員及び外国人スタッフとの懇親会が開催された。

懇親会には、大学院人文社会系研究科及び文学部に在籍する17カ国の外国人留学生・研究員、留学生博士論文作成支援ボランティア・ネットワークである「三金会」の先生方及び教職員約100名が参加。まず立花研究科長の挨拶があり、続いて林国際交流委員会委員長の発声で乾杯した後、懇談が始まった。



留学生によるマジックの披露

懇談は、終始和やかな雰囲気の中盛会のうちに行われ、途中、米国からの留学生によるヴァイオリン演奏があった。その美しい音色に酔いしれた後は、「三金会」の先生を代表して、石平快三氏から会の名称の由来や活動状況等を踏まえた留学生とのエピソードを中心に心温まるご挨拶があり、続いて中国からの留学生によるマジックの披露に参加者から大歓声が沸き上がった。

最後に留学生を代表して、中国の許永新（博士学生）さんから大変流暢な日本語でユーモアを交えながら『留学生生活について』の挨拶があり、会は20時に盛況のうちに終了した。



ヴァイオリン演奏を終えて笑顔の留学生

大学院総合文化研究科・教養学部

新横綱白鵬関、駒場訪問！

6月21日（木）、駒場キャンパスにおいてモンゴル語の授業のゲストとして横綱白鵬関の来校があった。教養学部学際交流ホールにおいて30分という短い時間であったが、学生達と交流し、モンゴル語での自己紹介の後、発音練習や会話練習に加わり、さらに質疑応答では、同年代の学生達からの質問に答え、モンゴル語で学生達に励ましの言葉が送られた。

教養学部モンゴル語の授業が開講してから、今年で4年目を迎えるが、今年度夏学期の「モンゴル語初級」の授業には約150名の履修登録者があり、大講義室で熱

心にモンゴル語を学んでいる。また、今年は、日本・モンゴル国交樹立35周年の年にあたり、「モンゴルにおける日本年」でもあるため、この6月には、モンゴル国のナンバリン・エンフバヤル大統領から本学創立130周年記念に祝辞のビデオレターが寄せられ、そこでもモンゴル語履修者にも励ましの言葉が送られている。



発音練習を共に行う白鵬関

地震研究所

第3回

APRU/AEARUリサーチシンポジウム —地震と津波に関するシンポジウム—を開催

6月21日（木）～22日（金）にインドネシアのジャカルタで第3回APRU/AEARUリサーチシンポジウムが開催された。

本シンポジウムは、環太平洋に共通の課題である地震・津波防災に学術の面から取り組むべきであるとして、京都大学尾池和夫総長の発案により、環太平洋大学協会（Association of Pacific Rim Universities, 略称APRU）と東アジア研究型大学協会（Association of East Asian Research Universities, 略称AEARU）との共同事業として開始された。

第1回は平成17年8月31日～9月1日に京都（ホスト：京都大学）で開催され、第2回は平成17年4月21日～22日にサンフランシスコ（ホスト：大阪大学とUC Berkeley）で開催された。第3回目のシンポジウムとして東京大学が提案者となり、インドネシア大学の協力を得て両大学がホストとなって平成19年6月21日～22日にジャカルタで開催となったものである。また、日本学術振興会から後援を頂いた。



司会進行をする加藤照之地震研究所教授



開会式で挨拶する岡村定矩理事・副学長

今回のシンポジウムはサブテーマ：「地震・津波・火山の現象と災害の多様性」のもとにAPRU/AEARU加盟大学を含む関係大学・研究機関から講演者を集め、社会学、工学、理学を含む分野横断的な討論会を開催した。岡村定矩本学理事・副学長による開会の挨拶、袴着実文部科学省科学技術・学術政策局次長の祝辞及びUsman Chatibインドネシア大学学長の歓迎の祝辞等が述べられた後、村井純慶應義塾大学副学長及びKusmayanto Kadimanインドネシア科学技術省大臣（Idwan Suhardi副大臣による代読）の基調講演が行われた。引き続き、地震・津波・火山の現象と災害の多様性について口頭並びにポスターによる講演が行われ、災害軽減に向けての活発な討論が行われた。会議は8カ国から149名の参加者を得た。最後はカリフォルニア工科大学Kerry Sieh教授と本学地震研究所の瀧川一起教授の共同司会による総合討論で締めくくられた。なお、初日の講演会終了後は講演会場となったホテル日航ジャカルタにおいてレセプションが開かれ佐藤悟在インドネシア日本大使館公使による祝辞が述べられたほか、本学東洋文化研究所の加納啓良教授によるインドネシアと日本の文化・自然の比較について特別講演が行われた。“Ring of fire”という名の示すように環太平洋地域は地震・津波・火山の活動が活発な地域でありそれに伴う災害とその復興は学際的な立場から取り組むべき多くの課題を我々に与えている。本シンポジウムが契機となり当該分野が新たな展望を切り開くことを期待したい。



開会式で挨拶する
Usman Chatib Warsa インドネシア大学学長

最後に武内和彦国際連携本部長及びSutanto Soehodhoインドネシア大学副学長から謝辞が述べられて閉幕した。なお、第4回はUC Davisが、第5回は台湾国立大学がホストに名乗りを上げている。最後になったが本会議は創立130周年記念事業の一環として挙行されたことを付記しておく。



会場のホテルロビーでの集合写真

留学生センター

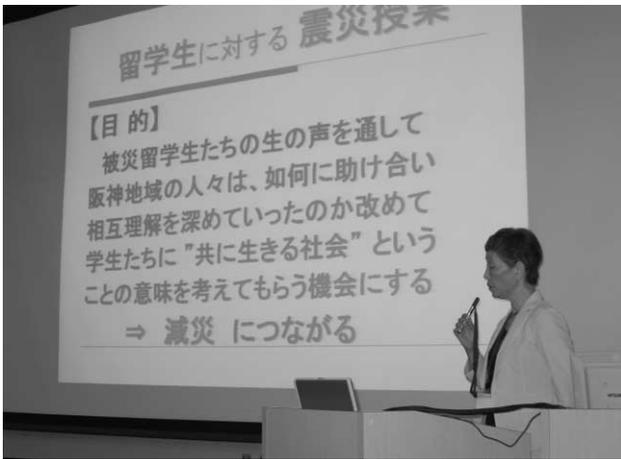


部局

国立大学法人留学生センター留学生指導担当研究協議会開催される

留学生センターでは、6月21日（木）、薬学系総合研究棟2階講堂において国立大学法人留学生センター留学生指導担当研究協議会を開催した。

この協議会は、国立大学法人の留学生センターにおいて主として留学生指導担当部門の教員が一堂に会して、留学生指導教育体制等の当面する諸問題について研究することを目的に毎年開かれているもので、今年も、48大学から55名の教員及び本学の留学生受入れを担当する専門教育教員等34名、計89名が参加した。



神戸大学留学生センター瀬口教授による講演

坂野留学生センター長の挨拶のあと、初めに、文部科学省高等教育局学生支援課留学生交流室長池田輝司氏による、「今後の留学生政策と留学生センター」と題する特別講演があり、次いで、「多文化社会における防災と共生」という共通テーマの下、神戸大学留学生センター教授瀬口郁子氏による「阪神大震災から学んだ共に生きる社会—留学生の視点から—」、長岡市国際交流センター長羽賀友信氏による「新潟県中越大地震における外国人支援と課題」、最後に新宿区地域文化部文化国際課長針谷弘志氏による「新宿区における防災と共生」についての3講演が行われた。講演ごとに活発な質疑応答が行われ、約3時間半、実りある研究協議会が持たれた。

その後、山上会館にところを移して懇談会が開かれ、和やかな雰囲気の中に、会は終了した。



熱心に聞き入る参加者

大学院総合文化研究科・教養学部

駐日米国大使特別講演会
開催される

6月28日（木）午後、駐日米国大使が駒場キャンパスを公式訪問された。アメリカ太平洋地域研究センターが主催した特別講演会「駐日米国大使トマス・J・シーファー大使と語ろう—政治・文化・日米関係」で講演を行

うとともに、学生と親しく語り合うことが大使訪問の第一の目的であった。歴史を振り返れば、駐日米国大使が東京大学を公式訪問するのは今回が初めてであり、講演会場となった数理科学研究科棟大講義室には学部学生・院生が殺到することとなった。別室に設けられた液晶大画面で大使の講演に耳を傾けた者も含めれば、300名近い学生が大使の歴史的訪問を歓迎したことになる。



講演をされるトマス・J・シーファー大使

まず大使はアメリカ太平洋地域研究センターで小島憲道総合文化研究科長、西中村浩同副研究科長、センター教授らと懇談されたのち、大講義室に移動、講演を開始された。政治経済のグローバリゼーションを先導する米国とそのグローバリゼーションの進展に懐疑的な人々との間に生まれがちな緊張関係、および東アジア地域の安全保障などについて講演を行ったのち、楽しみにされていた学生との質疑応答に入った。タウンミーティング方式と呼ばれる形を採用した今回の質疑応答では、大使自らが質問者を指名し、米国外交の一线に立つ者の責任とユーモアを織り交ぜつつ、一つ一つの質問に真摯に答えられた。



満員の会場で質問に立つ教養学部生

学生の質問は大使の意見に賛意を表明するものばかりではなく、米国外交への批判的見解を含むものも多かった。例えば、東アジアにおける日米関係の将来に必ずしも同意を示してはいない中国、北朝鮮に対し、今後米国はどのような外交を展開するつもりであるのか、イスラム原理主義を批判的に見る現在の米国民自身が、自国内

のキリスト教原理主義の伸張をどのように理解しているのか、といった質問がなされたのである。

大使と学生との対話は、教育・研究の場における率直な意見の交換を重んじる総合文化研究科・教養学部に相応しい快事であった。予定を大幅に延長し1時間近くも学生と対話を続けられたシーファー大使に重ねてお礼を申し上げると同時に、在日米国大使館、教養学部附属教養教育開発機構からの助力にも記して謝意を表したい。

= 特集テーマ&執筆部署募集告知 = 特集の記事を執筆してみませんか？

学内広報では巻頭特集の記事テーマとその執筆部署を募集しています。学内への周知を図るためのツールとして特集はとても効果的です。皆さんの部署でも、ぜひ特集の記事を執筆してみませんか？

1. 制作方法

① テーマの選定

全学の教職員を読者対象とするテーマを選定することにしています。
まずは一度、総務部広報課に気軽にご相談ください。特集に馴染まないテーマでない限り、対応します。
(締切日の2週間前位までに1度ご相談ください)

② 内容・構成の決定

執筆部署と学内広報編集スタッフ（以下、編集スタッフ）が打ち合わせをしてページの内容を決めていきます。
見開き2ページを1単位とします。内容が盛りだくさんの場合は4ページ、または6ページで構成することもあります。

③ 原稿の執筆

決定した構成に合わせて執筆部署に原稿を書いていただきます。
字数等は編集スタッフが提示します。原稿はwordファイルでご制作下さい。

④ ビジュアル要素の提供

特集に盛り込む写真・図・イラストを執筆部署から提供していただきます。
手持ちの写真がない場合は編集スタッフが撮影にうかがいます。

⑤ デザイン

お書きいただいた原稿、ご提供いただいた写真・図等を素材にして、編集スタッフがページデザインを作ります。
もちろん、執筆部署でデザインを作っていただいてもかまいません。

⑥ 校正

デザインしたページイメージをお送りしますので、主に文字校正を行なっていただきます。

⑦ 完成

刷り上がった学内広報は、執筆部署に多めに配布します。

2. 締切日

こちらから期日を申しますので、ご協力をお願いします。
通常の学内広報の切日（第1・第3水曜日）の**2日前**を原稿締切日とします。

3. 問い合わせ先・原稿提出先

本部広報グループ広報企画チーム TEL：03-3811-3393 内線22031 E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

今号でひとまず終了です

調達本部です



第31回 調達改善施策と「広報」

「財やサービスを高く売りたい人たちから、少しでも安く買う。」そこにはそもそも大きな矛盾があり、単純な回答などありません。現に調達本部の施策も、全てが上手くいっているわけではありません。ただ、どんな施策を進めるにしてもバイヤーに安く買うという意識を持ってもらうことは非常に重要なことと考えてます。

調達本部では、自らの活動報告に併せて、バイヤーの意識を変えるための一助にとの思いから、2005年12月にコラム「調達本部です」の連載を開始しました。今回で31号となりますが、都合によりこの号をもってひとまず終了することとなりました。

掲載中は、各方面からいろいろな声をいただきました。学内からは「楽しく読んでよ。」「いろいろな事に取り組んでるね。」などの励ましや、「新しい印刷の見積書の様式がほしいのですが。」といった調達本部の取り組みへの共感とも取れる言葉もいただきました。

このコラムの読者は、当然学内者ばかりではありませんでした。この広報で調達本部の活動を知った他の国立大学や研究機関の調達担当の方々から「調達本部の活動について知りたい。」「UT購買サイトを実際に見たい。」といった問い合わせもあり、訪問を受けたこともたびたびでした。そんな訪問者の中には「東大の調達改善に興味を持ちました。東大へ異動希望を出そうと思えます。」という方までいました。各国立大学、各担当にとって、調達改善、コスト削減は大きな課題であることを改めて認識しました。

大学関係者以外では、東大との取引拡大を狙うサプライヤの方々も興味を持って読んでいたようです。「UT購買サイトに登録したいのですが。」「印刷物の入札に参加させてください。」といった営業が大半ですが、「広報に書かれた主旨からすると、私どものとの取引としてはこんな絵が描けるのでは。」と自ら東大へ新たなビジネススキームを提案してくる会社もありました。

学内の意識変化を促し、他大学の担当に興味を抱かせ、サプライヤの気構えを変えさせたこの「調達本部です」。意外にも、このコラムの効果は他のどの調達改善施策にも引けを取らないほど大きかったのかも知れません。

調達改善を進めるに当たり「やっぴいなかったところへ道筋をつける」ことは比較的容易ですが、それを組織に定着させることは必ずしも簡単ではありません。「定着」には、広報活動のような地道な取組を継続することが重要です。そのため、私たちは折をみて自らの活動をいろいろな場面で紹介していくつもりではあります。

最後となりましたが、このコラムを読んでいただき、ありがとうございました。今後も「調達本部」へのご支援をお願いいたします。

調達本部連絡先 ☎21202

東大基金通信

Step by Step



第3回 寄附者の心と渉外活動

東京大学の渉外活動においては、民間企業での豊富な営業経験のある職員が多く活躍しています。第2回の飯塚グループ長からのメッセージに続き、今回は特任専門員の安藤さんに渉外活動のポイントを語っていただきました。

寄附者の心を慮る

安藤 晴夫
渉外本部 特任専門員

渉外本部は、東京大学基金への寄附活動を企画、渉外することが主たる分掌業務ですが、「寄附の渉外」って、イメージ湧きますか？ 90億円強まで積上った寄附ですが、実際に寄附する《寄附者の側から見る》とどのような景色に見えるのでしょうか？《卒業生》による母校東大への寄附や《教職員》による勤務先東大への寄附までは何とか想像できるとして、《企業》が東大への寄附を決断するトリガーとは何でしょうか？ 各大学が競って周年寄附を要請している中で、東大だけに多額の寄附をするのは容易ではないでしょう。

渉外本部には、東京大学基金を積上げて全学の戦略的資金を積上げていくという使命があります。東大とのチャネルが細い企業・個人に対しても連携の輪を拡げていく尖兵の役割があります。心がけていることは、第一に、東大のビジョン《時代の先頭に立つ大学》とこれを実現する《東大アクション・プラン》を明解に語り寄附者に対して提案していくこと。第二に、《寄附者の側からみて、東大がどう見えているか。今後どのような接点が期待されているか》についてアンテナを高くして対話することです。35年前に長期信用銀行に入社し、融資業務の他に調査審査業務や先端商品開発業務を担い、5年前からハイテクベンチャーの経営に携わった経験を全て活かして、企業経営者の視点から東大を見つめ、提案するように心がけています。

寄附への最初の関門は、往訪前に企業の公開情報を徹底的に分析し、経営者との最初の面談で琴線に触れてナマの声を聞くことができれば、越えていくことができます。卒業生のベンチャー(上場企業)社長を往訪した際、留学生向けの奨学金に狙いを定めて支援への強いニーズを訴えた際、成長を続ける企業としての寄附は難しいが、社長個人として多額のご寄附いただけることとなり、冠奨学基金の誕生に漕ぎ着けた事例があります。また、企業の先端的な研究開発活動に注視してその産学連携ニーズを起点として研究室への助成と全学への寄附を同時に達成できた例も少なくありません。さらに、総括寄附講座のアレンジによる高額寄附への取組みや魅力ある大学院教育への助成完了後の企業寄附にご協力した事例もあります。

渉外本部は、東大全学の財務基盤充実に向けて、企業ニーズを粘り強く把握し、広く学内のご協力を得て活動しております。基金への引続きのご支援をお願いいたします。

みなさまのご支援のおかげで教職員参加率もついに15%を超えました！ありがとうございます！（鈴木）

基金最新情報

2,636件 9,193,342,301円

(内教職員 1,114件)

(7月4日現在申込)

教職員参加率 15.3%

連絡先: 渉外本部 鈴木

電話: 内線21247(外線03-5841-1247)

HP: <http://utf.u-tokyo.ac.jp/index.html>

※「東京大学トップページ」上で「東京大学基金」をクリック

第6回産学官連携推進会議が初夏の京都で開催されました

産学連携に関わる人たちが京都に集合



メイン会場の大会議場は常に満席だった

6月16日(土)～17日(日) 国立京都国際会館にて、第6回産学官連携推進会議が開催されました。この会議は、産学官連携を担う第一線のリーダーや実務経験者等が一堂に会し、具体的な課題について、研究協議、情報交換、対話・交流・展示等の機会を設けることにより、イノベーションの創出に向けた産学官連携の新たな展開を図るために開かれたものです。参加者は年々増加し、今年は登録者数だけで4千人を超えました。

午前中の会議は、アナウンスによる安倍晋三総理からのメッセージで始まり、高市早苗内閣府特命担当大臣(科学技術政策・イノベーション)が「イノベーション～未来をつくる、無限の可能性への挑戦～」をテーマに基調講演をされました。イノベーション25の基本的な考え方や日本・世界のこれからの20年、科学技術基本計画とイノベーション25の関係などをわかりやすく解説していただきました。

午後からの分科会では、①イノベーション、②地域から世界を目指す地域クラスターの強化、③第2期を迎える大学の知的財産戦略、④求められる高度理工系人材をテーマにそれぞれ話し合われました。



産学連携本部の展示ブース(右)

東京大学国際・産学共同研究センターの展示ブース(左)

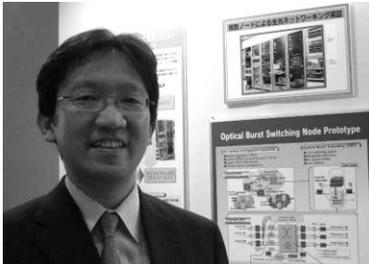
活気あふれる展示ブース

展示ブースには、産学連携本部、本学国際・産学共同研究センターなどが出展しました。産学連携本部はブース前にパンフレットや、モニタをおき「東京大学案内。」のビデオを流しました。またブース前には、説明員が立ち、ブースを訪れた方々に産学連携本部の説明を行いました。展示ブースは、出展する大学や企業が年々増えているそうです。共同研究から生まれた食品や商品を展示している大学も多く、会場では朝早くから、夜遅くまで活気あふれていました。

第5回産学官連携功労者の最優秀賞である「内閣総理大臣賞」を受賞しました

6月16日の夕方、メイン会場で、第5回産学官連携功労者の表彰式が行われました。『フォトリックネットワーク技術の研究開発及び大学発・カーブアウト型ベンチャーの設立』で内閣総理大臣賞を受賞した荒川泰彦教授、中野義昭教授(先端科学技術研究センター)、菅原充代表取締役社長(株式会社QDレーザ)は、受賞式の後プレゼンテーションを行いました。その後展示ブース前に移動して、高市早苗内閣府特命担当大臣へご説明しました。

展示ブース前で中野義昭教授にお話を伺うことができました。
 取材者「受賞おめでとうございます。複数企業と共同研究をされておられましたが、そのときの苦労やメリットなどをお聞かせください」
 中野教授「苦労の連続でしたよ(笑)。でも結果として受賞したことは大変うれしいことですし、今後のやりがいにもつながったと思います。複数企業と共同研究を行って難しいなと感じたのは、参加企業それぞれに思惑がある中で



展示ブース前の中野義昭教授

のコミュニケーションのとり方でした。1年目はお互い手探り状態でしたが、2年目からは共通の目標をめざして進むことができました。そのとき企業や大学の壁を越えて、1つのチームとしてまとまったなと感じました。また学生やポスドクにも変化がありました。大学の組織しか知らなかった彼らが、共同研究をしている企業の方と接するうちに、仕事観やコミュニケーションのとり方などを学んでいったのです。産業界に出る前のトレーニングになったのかなとも思いました」
 取材者「産学連携の場が人材育成にもつながったのですね」



展示ブース前で高市早苗内閣府特任担当大臣に説明する荒川泰彦教授

連絡先:産学連携本部(本部産学連携グループ) 電話:内線22857(外線03-5841-2857)

ホームページ:<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

※「東京大学トップページ」上で「産学連携本部」をクリック



科学技術振興調整費新興分野人材育成 科学技術インタープリター養成プログラム

若者の科学離れをめぐって

長谷川寿一

大学院総合文化研究科 教授
科学技術インタープリター養成プログラム担当

若者の科学離れが叫ばれて久しいが、それは実際に起きていることなのか？ 先日、有馬元文部大臣の話の聞く機会があったが、「理科離れなんてない。子どもはみんな、科学が好きなんだから」との弁。実際のデータでも（国立教育政策研究所が平成13年に実施した調査）、小学5年生から中学3年までの児童・生徒に教科ごとに好き嫌いを尋ねると、理科を好きと答える率は、どの学年でも国語、算数（数学）、社会よりも高く、中1でのみ英語を下回ったが、中2、中3では英語よりも高かった。なんだ、理科離れは根拠がないのか、よかったと思うのは早計である。同じ調査で、理科を勉強すれば、ふだんの生活や社会に出て役立つかどうかを尋ねると、その比率はすべての学年で他教科より格段に低く、理科を生かした職業につきたいかを尋ねると、さらに低かった。この数字のかい離は何を意味しているのか。科学技術政策研究所の渡辺正隆さんは、子どもたちに理科を学ぶ意味が伝わっていない、と指摘する。では、成人ではどうか。総理府の調査によれば、科学技術に関する情報に関心がある20代、30代の人々の間で、科学技術についての情報に関心があると答える比率が、中高年よりかなり低いことが目につく。インターネットや携帯電話など科学技術の恩恵をもっともこうむっている20代では、40～60代よりも20ポイントも低いのだ。内閣府の別の調査では、科学技術に関して、倫理的問題に対する懸念や、規制を求める意見が根強いことも浮かび上がっている。また、科学についての説明はわかりにくいという意見も増えている。次世代の日本の科学者を育成する上でも事態は深刻だ。このような状況の中で、科学者の対応は残念ながら鈍いといわざるを得ない。研究者がすぐ思いつく公開シンポジウムや市民向け講座も重要だが、それだけでは不十分である。国民のより広範な層に向けて、科学技術を分かりやすく説明し、なにより「科学する喜び・楽しさ」を組織的に伝えていかねばならない。これは科学技術インタープリタープログラムを履修する院生だけの問題ではなく、すべての科学者にとっての使命であろう。



小学校での出前授業。イヌを題材に進化を教える筆者

★科学技術インタープリター養成プログラム
URL:<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/STITP/>

■展示入れ替えのご案内

コミュニケーションセンター展示スペースでは、本学の研究、施設にちなんだ展示を行っております。7月下旬より、「検見川緑地植物実験所」より蓮の生花をお借りし、展示致します。

「蓮香」に使われている大賀蓮の実際の香り、是非一度、ご体験下さい。



<展示関連商品>

■「蓮香」オードパルファム

●販売価格：2,100円（税込）



■UTCCスタッフ紹介

～Part 9～

早いものでUTCC学生スタッフ紹介も9人目です！！学生スタッフ一同、お客様の笑顔を活かして頑張っております。店頭にお立ち寄りの際は是非お声をお掛け下さい！



大学院情報学環・
学際情報学府
社会情報学コース
山口 真由

（担当：コミュニケーションセンター 吉岡）

UTCCにいらして頂いたお客様にこんな事もやっているんだ！とお声を頂いたり、笑顔で商品をお買い上げ頂いた時、やりがいを感じます。UTCCではまた、店内の展示を通じて研究成果の発信を試みています。先日、創立130周年記念事業の一環として開催された学際情報学府のイベント「Thinking Forest」の一部である「i-Forest」の映像も現在公開中です。これからもどんどん研究成果を発信してゆきますので楽しみに！！



The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

OPEN：月曜～土曜 10：30～18：30

電話：03-5841-1039

<http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp>



ワタシのオシゴト / 第17回

Rings around the UT

工学系・情報理工学系等学務支援グループ
赤坂絵美さん



『学内広報』の 40年を探る Part.2

大名屋敷の跡地でもある本郷構内の発掘調査について訊かれたとき、『学内広報』の掲載記事をご紹介しますことがあります。今回は、その中から選んでお話しします。

■調査地点：経済学研究科棟 <No.1.170 / 1999年>

赤門の奥には、溶姫の広大なプライベート御殿が広がり、なんと300名もの女中を従えていたとのこと。調査地点は特に台所あたり地下室や陶磁器が出土。地下室への階段も石組みで作られていることから、台所内の頻繁な出入りが予想されるとあります。忙しそうなお女中の姿が私には浮んでくるのですが、いかがなものでしょうか？

■調査地点：医学部附属病院 <No.1.106 / 1997年>

【富山藩の表御殿の一部は、明治時代に医学教室として使用され、その後、三四郎池畔の山上に移築され、「山上御殿(サンジョウゴテン)」と呼ばれました。御殿は関東大震災によって焼失しましたが、「御殿下(ゴテンジタ)」の名称は現在も残っています。】と記載あり。「御殿下グラウンド」と呼ばれる由縁がここにありました！

■調査地点：医学部附属病院 <No.1.059 / 1996年>

富山藩邸にあった長屋の間取りは・
「8畳一間、自炊可、トイレ・炊事場共同」だとか。
この長屋は、天和2年12月28日の「八百屋お七の火事」にあったとき、大量の焼土によって生活面が覆われたために、良好な遺存状態だったとされ、畳の編み目や床下の貯蔵庫にお米も見つかったとのこと。まさに江戸の「ポンペイ」と言えるのだそうです！

■調査地点：生命科学総合研究棟 <No.1.224 / 2001年>

【農学部敷地は弥生式土器名称発祥地として東京都の史蹟に指定されており、弥生遺跡の存在が予想されたが、調査の結果、明治20年代に周辺地域が開発され、仮に存在したとしても、明治期に失われたことが明らかになった。】と記事は伝えています。旧町名の「向ヶ岡弥生町」から土器が見つかったので「弥生式土器」と名付けられたことは、多くの方がご存知だと思います☆

■調査地点：武田先端知ビル <No.1.231 / 2002年>

弥生時代の方形周溝墓(ホウケイシュウコウボ)というお墓が発見され、弥生式土器やガラスビーズも出土したとあります。今は「浅野正門」内側の道路に、配色の違いで方形周溝墓の位置が示されています。近くの柱には「遺跡解説板」を掲示。さらに、工学部9号館 東側に「弥生二丁目遺跡」の銘盤が設置されています。ぜひご確認ください！

*詳細について調べたい方は・・・

『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書』他 があります。

～次回へ続くかもしれない!?～



私のオシゴト



ただいまオシゴト中

工学系研究科学務支援グループ専攻チーム(物理工学専攻)の赤坂絵美です。東大に就職してから3年。まだまだ新米ですが、「専攻事務室」という職場にも大分慣れてきました。

事務室での私の業務は、学生の学籍・履修・成績管理はもちろんのこと、講義や試験日程の調整、カリキュラム編成や大学院入試の補助・・・とその内容は多岐に渡っています。時には学生の講義の出席状況や取得単位数を把握し、呼び出すことも。

一年が入学式の準備に始まり、卒業式の後片付けに終わるので、自らの学生時代を懐かしく感じると同時に、常に先生や学生を意識した細やかな気配り、急な質問や要望への速答力を身に付けられるよう多くの事を吸収していきたいと感じる毎日です。



アットホームな職場です

出身地：東京都

自分の性格：どちらかというと保守的 血液型：O型

次回執筆者のご指名：寺瀬竜二さん

次回執筆者との関係：ハングルの先輩

一言紹介：とても優しい先輩です。



教育学部附属中等教育学校で 体育祭が行われる

5月19日（土）8時30分から16時まで、教育学部附属中等教育学校で、体育祭が開催された。

生徒がグラウンドに出たところから小雨が降り始め、開会式の頃には雨脚が強くなった。急遽、体育館に場所を移して開会式をおこなったが、生徒の理解と協力があり、スムーズに進行した。

開会式後は、小雨の中、予定通り体育祭がおこなわれた。午後になると次第に日差しが戻ってきた。子どもたちは最後まで精一杯、競技に参加した。熱戦の結果、優勝はA組。A組団長の本間大樹君(5年生)は、「応援団長をやって、とてもよかったです。練習のときはいつも仲間と衝突して大変でした。でも、本番ではみんなで楽しくできて、やりがいがありました。これは一生の思い出だと思います。」と感想を述べてくれた。

今年度体育祭実行委員長の黄智絵さん(5年生)は、「今年は初めてのことを色々実行した『挑戦』の年となりました。体育祭の仕事は本当にやりがいがあり、自分自身も楽しみながら仕事ことができました。体育祭を通してまた一つ成長できました！本当にありがとうございました。」と感想を述べてくれた。



教育学部附属中等教育学校4年生が 歌舞伎教室に参加

6月4日（月）に、本校4年生（高校1年）を対象とした歌舞伎教室が開かれた。これは、毎年「国語総合」の授業の一環として、国立劇場で行われている「歌舞伎鑑賞教室」に参加しているもので、事前に授業で歌舞伎に関する基本的な知識や、演目に関する内容を学習した上で、実際の舞台を鑑賞している。

今年は、「双蝶々曲輪日記」より「引窓」が上演された。仲秋の名月の前日、郷代官（村の警護役）に任じられた男の初仕事は、義理の兄弟の力士を捕らえることだったものから、我が子を思う母、その愛情にうたれて間で悩む郷代官夫妻、そして母の愛から縄にかかろうとする力士の各々の心情の移り変わりに、会場からは涙声が聞こえることもあった。

幸い座席が、花道を挟んで最前列寄りであったため、生徒は至近距離で舞台を堪能することができた。上演前に、「歌舞伎のみかた」として、実際に演ずる俳優から舞台に関する事柄、演目の見所等について解説があった。その際に本校代表者二名が舞台へ上がり、実際に使用される大道具に入ったり、小道具を手にする機会もあり、大変貴重な体験ができた一幕もあった。

INFORMATION

シンポジウム・講演会

シンポジウム・講演会

教育企画室

TREEワークショップ & シンポジウム2007のご案内 「大学生とメディアの"今"を探る」

日時：7月27日（金）10:00～17:15

場所：駒場キャンパス

参加費：無料

懇親会（17:45～19:30） 3,000円（希望者のみ）

募集定員：

- ・TREEワークショップ1 学内・学外 50名
- ・TREEワークショップ2 学内限定 30名
- ・TREEシンポジウム 学内・学外 250名

主催：教育企画室

共催等：教養学部附属教養教育開発機構、産学連携本部、大学総合教育研究センター、マイクロソフト先進教育環境寄附研究部門、TREEオフィス、情報学環

参加申込及び詳細：

<http://tree.ep.u-tokyo.ac.jp/>にてご確認下さい。

<<TREEワークショップ プログラム>> 10:00～12:00

■TREEワークショップ1

（定員に達したため、締め切らせていただきました。）

「駒場アクティブラーニングスタジオワークショップ」

コーディネータ：望月俊男（大学総合教育研究センター）
山内祐平（情報学環）

サポーター：林一雅（教養学部附属教養教育開発機構）

- ご挨拶
浅島誠（本学理事・副学長）
- 企画趣旨
（10:00～10:15）
- ラーニングスタジオ型教室の現在
（10:15～10:30）
- ワークショップ
（10:30～12:00）

■TREEワークショップ2

「教育の情報化と著作権ワークショップ」

司会：西森年寿（大学総合教育研究センター）

サポーター：類家利直（大学総合教育研究センター）

- 企画趣旨
（10:00～10:10）
- 教育と著作権（レクチャーとディスカッション）
末吉互（弁護士・法科大学院客員教授）
（10:10～11:10）
- 東京大学における著作権処理の実際
山本恵美（教育企画室）
（11:10～11:30）
- 東京大学におけるコンテンツ開発の実際
重田勝介（大学総合教育研究センター）
（11:30～11:50）
- 全体質疑
（11:50～12:00）

<<TREEシンポジウム プログラム>> 13:00～17:15

「大学生とメディアの今を探る」

コーディネータ：中原淳（大学総合教育研究センター）

サポーター：神谷真紀（大学総合教育研究センター）

- ご挨拶
岡本和夫（大学総合教育研究センター）
（13:00～13:15）
- 特別講演
清水康敬（独立行政法人メディア教育開発センター）
（13:15～14:05：質疑10分込み）
- 休憩（14:05～14:15）
- 仮想環境「セカンドライフ」に出現した教育環境
三淵啓自（デジタルハリウッド大学院大学）
（14:15～14:55：質疑10分込み）
- iTunes U：携帯型音楽プレーヤを活用した教育リソースの配信
坂本憲志（アップルジャパン 教育プログラム推進）
（14:55～15:35）
- 休憩（15:35～15:45）
- 日本社会の情報化の特徴と高等教育
木村忠正（大学院総合文化研究科）
（15:45～16:25）
- 東大での取り組み1
知の構造化センター
松本洋一郎（大学院工学系研究科）
（16:25～16:55）
- 東大での取り組み2
TREEプロジェクト
藤原毅夫（大学総合教育研究センター）
（16:55～17:15）

募集

募集

本部学生支援グループ

平成19年度第1回（秋） 本学学生表彰「東京大学総長賞」の募集について

本学の学生を対象として、学業、課外活動、各種社会活動、大学間の国際交流等の各分野において、「優れた評価を受けた」「優秀な成績を収めた」「本学の名誉を高めた」などの顕著な功績のあった個人又は団体に、総長が表彰を行う「東京大学総長賞」が平成14年度から設けられています。

この表彰は、本学教職員・学生からの推薦に基づき、「東京大学学生表彰選考委員会」（以下「選考委員会」という。）が選考にあたり総長が表彰するものです。

選考委員会では、推薦された候補者の中からその内容を審査のうえ、「東京大学総長賞」として相応しいものが決定されます。

なお、**第1回（秋）は学業以外の課外活動等を対象**に募集します。また、第2回（春）には年間総長賞受賞者の内、特に優秀な者に対し、「総長大賞」が授与される予定です。

記

1. **提出物**：別紙様式1（個人）又は別紙様式2（団体）に必要事項を記入し、参考資料等を添付してください。また、書類の提出にあたってはホームページ上の「推薦書類の提出について」を参照してください。
2. **推薦基準**：以下のとおり。
3. **提出期限**：**9月5日（水）午後4時まで（必着）**
4. **選考結果**：9月中旬に推薦者及び選考対象者へご連絡いたします。
5. **授与式**：平成19年10月下旬に実施を予定しています。日程の詳細は決まり次第お知らせします。

◎詳細については、ホームページをご覧ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/stu01/h12_j.html



昨年度の記念撮影風景



総長賞授与風景

【提出先及びお問合せ先】

本部学生支援グループ学生生活チーム

担当：小林・宮内

内線：21205・22514

E-mail：gakuseiseikatsu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

平成18年6月28日
学生表彰選考委員会

東京大学学生表彰「東京大学総長賞」推薦基準

東京大学学生表彰実施要綱（平成14年3月19日総長裁定、平成18年6月28日改正）第3に基づき、推薦の基準を以下のとおりとする。

- (1) 学業において、研鑽に励み、他の学生の範となった個人若しくは団体又は学界等により優れた評価を受け、本学の名誉を高めた個人若しくは団体
- (2) 課外活動において、国内外の各種スポーツ、競技、演奏、展示、発表等で優秀な成績を収め、本学の名誉を高めた個人若しくは団体又は課外活動を支援し、課外活動の充実と振興に著しい貢献をした個人若しくは団体

- (3) 環境保全、災害救援、社会福祉、青少年育成、海外援助協力等の各種社会活動において、活動実績が認められ、他の学生の範となった個人若しくは団体又は社会的に優れた評価を受け、本学の名誉を高めた個人若しくは団体
- (4) 大学間の国際交流において、相互理解と友好関係を深め、本学の国際交流の発展に著しい貢献をした個人又は団体
- (5) その他、これらに準ずるもので、「東京大学総長賞」に相応しい貢献があった個人又は団体

上記基準による推薦者については、自薦又は他薦とする。

ただし、基準(1)の推薦者は、学部学生については学部長、大学院学生については研究科長・教育部の部長に限る。

なお、年2回の授与のうち、第1回目(秋)の推薦は上記基準の(2)～(5)を、第2回目(春)の推薦は基準の(1)をそれぞれ対象とする。

また、在学中の学業、課外活動、社会活動等の評価、活動実績等が上記基準に該当する者は、卒業又は修了後1年以内に限り選考の対象とする。

お知らせ

お知らせ

附属図書館

常設展示「(新制) 東京大学総長著作展(2) —平野総長から佐々木総長まで—」

期間： 7月5日(木)～ 9月26日(水)
(7月26日(木)、8月23日(木)、
9月9日(日)の休館日を除く)

会場： 総合図書館3階ロビー

附属図書館では、本学創立130周年にちなんで、新制大学になってからの歴代総長の著作展を開催しています。南原繁総長から向坊隆総長までを取り上げた第1回に引き続き、今回は平野龍一、森亘、有馬朗人、吉川弘之、蓮實重彦、佐々木毅の各総長6名の著作とプロフィールを紹介します。

多数の皆様のご来場をお待ちしています。

なお、秋には創立130周年を記念した特別展示を企画しております。ご期待ください。

お知らせ

本部学生支援グループ

第二食堂建物地下プールの特別公開について

第二食堂建物地下プールを次の期間、特別公開しますのでぜひご利用ください。

期間： 7月17日(火)～8月1日(水)及び、
8月20日(月)～8月31日(金)の平日

時間： 11時30分～14時

第二食堂建物地下プールを使用する際、学部学生は学生証、大学院学生・教職員は運動会員証を持参してください。

また、貴重品は持ち込まないでください。

※ 運動会員証は学生支援グループ(旧・学生課)体育チーム窓口(運動会窓口)にて発行しています。

準会員(院生・研究生他)	2,500円
特別会員(教職員)	3,000円

お問い合わせは、学生支援グループ体育チーム(運動会窓口)まで。(内線22509～22511)

お知らせ

大学院農学生命科学研究科・農学部

創立130周年記念事業「花蓮～歴史と夢～」のご案内

7月21日(土)から8月10日(金)まで安田講堂前広場に緑地植物実験所で栽培している花ハスを展示します。屋外展示ですので、会期中の大学開門時間中はご自由にご覧いただけます。花の見ごろは午前中です。

緑地植物実験所は、千葉県千葉市にある本研究科の附属施設で大賀蓮のもととなった種(厳密には瘦果)が発掘された検見川総合運動場の隣に位置しています。

当実験所では、これまで四十数年間にわたり多数の花ハス品種を栽培し、研究・教育に利用するとともに、我が国を代表する花ハスの栽培・研究施設として、国内外各地への花ハスの分譲や栽培技術指導、植物材料や含有成分の提供、品種の同定、品種情報の提供などさまざまな形で、成果を社会に還元して参りました。

この企画は、本学創立130周年にあたり当実験所が栽

培している品種の中から、その3割弱にあたる70余品種を選び展示しご覧いただくことで、大賀蓮を初めとする花ハスや緑地植物実験所について、本学学生、教職員、近隣住民の方々により多くを知っていただこうというものです。

7月31日(火) 10:00から11:00まで花ハスの解説と実験所で作ったハスの葉茶の試飲会を行います。(雨天中止)

なお、この企画にあわせて関連の展示をコミュニケーションセンターで行っておりますので、是非ご覧下さい。



緑地植物実験所で咲く花ハス

お知らせ

分子細胞生物学研究所

創立130周年記念事業 東京大学堀場国際会議
「独創的研究の真髄：コーンバーグ親子から学ぶ」

東京大学堀場国際会議「独創的研究の真髄—コーンバーグ親子から学ぶ—」では、DNAポリメラーゼ研究で1959年ノーベル賞を受賞したアーサー・コーンバーグ、アーサーの長男で、RNAポリメラーゼ研究で2006年ノーベル賞を受賞したロージャー・コーンバーグ、次男で発生研究の第一人者でUCSFの教授であるトム・コーンバーグ及び三男で建築家のケン・コーンバーグ親子を招聘して、まったく異なるキャリアパスを経てそれぞれ第一線の研究者となった4人にその研究観についての講演など、2日間わたるシンポジウムを開催します。

<<開催要領>>

日時：7月23日(月) 13:00~17:30

7月24日(火) 11:00~17:30

会場：安田講堂及び山上会館(7月23日)

医科学研究所1号館講堂(7月24日)

鉄門講堂(医学部教育研究棟14F)(7月24日)

弥生講堂(7月24日)

主催：東京大学

費用：入場無料

お問合せ先：分子細胞生物学研究所総務チーム

TEL：03-5841-7885

E-mail:imcbshom@iam.u-tokyo.ac.jp

URL:http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/moldev/

070723Kornberg.html

<<プログラム 7月23日(月)>>

※ プログラムの詳細は変更の可能性があります。

●13:00~15:30 コーンバーグ親子による講演
アーサー・コーンバーグ博士(1959年ノーベル賞受賞)
ロージャー・コーンバーグ博士(2006年ノーベル賞受賞)
トム・コーンバーグ博士(UCSF教授)
会場：安田講堂

●15:45~17:15 若手とコーンバーグ一家の交流会
会場：山上会館1階ホール

●16:00~17:30 ケン・コーンバーグ氏による講演会
会場：工学部11号館1階会議室

<<プログラム 7月24日(火)>>

※ プログラムの詳細は変更の可能性があります。

■シンポジウム 14:00~16:00

医科学研究所1号館講堂

スピーカー アーサー・コーンバーグ博士ほか2名

■講演 11:00~12:00 鉄門講堂(14F)

スピーカー ロージャー・コーンバーグ博士

■シンポジウム 12:30~17:30 弥生講堂

スピーカー トム・コーンバーグUCSF教授ほか9名

お知らせ

地震研究所

公開講義・一般公開のお知らせ

地震研究所(ERI)は、8月2日(木)、公開講義・一般公開を開催いたします。今年、「ERI地球実験室」をテーマに、地球全体が実験室とも言える我々の研究活動をご紹介します。新たにミニ講演会(じしんカフェ)も企画し、参加者との交流型のイベントを目指していますので、この機会にぜひ足をお運びください。

■月日：8月2日(木)

■内容：

・研究展示(地震研究所1号館)、10:00~16:00、閲覧自由

・公開講義(農学部弥生講堂)、13:30~15:40、定員300名

①予測が難しい直下型地震(島崎邦彦教授)

②電気と磁気でみる地球内部(歌田久司教授)

■参加費：いずれも無料

■公開講義の受講方法：公開講義の入場券は、当日10:00より地震研究所1号館受付で先着順に配布いたします。例年とは会場が異なる関係で、今年は事前申し込みは行いません。あしからずご了承ください。

■問い合わせ先：地震研究所アウトリーチ推進室
電話：03-5841-5643

メール：openlec@eri.u-tokyo.ac.jp

<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/KOHO/PANKO2007/>

東京大学地震研究所
公開講義・一般公開
開催日：2007年8月2日(木)
主催：東京大学地震研究所 後援：文京区

ERI 地球実験室
Earthquake Research Institute Laboratory of Earthquake and Earthquake Engineering

公開講義 1
「予測が難しい
直下型地震」
島崎邦彦 教授

公開講義 2
「電気と磁気
でみる地球内部」
歌田久司 教授

A. 研究展示 地震研究所1号館・2号館 10:00～16:00 (開覧自由)
地球は私たちの実験室です。地震研究所で行っている研究内容をご紹介します。

B. 公開講義 農学部学生講堂 13:30～15:30 (定員 300名)
最新の研究成果を一般の方向けにわかりやすくお話しします。

◎ 公開講義の入場券は、当日10:00より地震研究所1号館受付で先着順に配布いたします。今年も安田講堂が改修中のため、農学部学生講堂が会場となりますので、ご注意ください。例年と会場が異なる関係で、今年は事前申し込みは行いません。あしからずご了承ください。

■ 問い合わせ先：東京大学地震研究所 アウトリーチ推進室
電子メール：openlec@eri.u-tokyo.ac.jp
電話：03-5841-5643
地震研究所のホームページ：<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/jhome.html> もご覧ください。

ニュースページ、 インフォメーションページ への記事提出要領

「学内広報」は皆さんから送っていただく記事で作られています。下記の提出要領により、積極的に学内の情報をお寄せください。

1. 提出方法

記事は、各部局の広報担当者を通して、メールの添付ファイルとしてデータで送付すること。

2. 締切日

原則として毎月第1・3水曜日を原稿の締切日とする（配布は翌々週の火曜日）。ただし祝日等により変更となる場合があるため、本学HPの左下にある「学内広報アイコン」をクリックして、発行スケジュールを確認すること。

3. 提出の際の留意事項

(1) 文字数

文字数は記事1件につき800字を目安とし、内容により増減は可とする。

(2) 写真

- ① 写真を掲載する場合はキャプション（説明文）を25文字以内で添えること。
- ② 写真を電子データで提出する場合、Wordファイルなどに貼り付けず、jpeg等の形式による元の画像ファイルを送付すること。
- ③ 写真は電子データがない場合、プリントのものも掲載可とする。

(3) 書式

- ① 原稿は1行25文字の書式で作成すること（ただし、大きな図表などが含まれる場合は、この限りではない）。
- ② 原稿のはじめに担当部局名と記事タイトルを記載すること。
- ③ 記事タイトルは極力簡潔でわかりやすいものとする。

(4) 文章表現のきまり

- ① 句読点は「、」「。」を用いること（「，」「。」は用いない）。
- ② 時間は24時間表記とし、日付には括弧書きで曜日をつけること。
- ③ この他、特に表記する必要のない「平成●年」は削除する、特に支障がない限り「東京大学」は「本学」とする等、表記統一のための修正を編集段階で行う。

※編集スケジュールの都合上、原則として校正はできません。基本的にはいただいた原稿がそのまま掲載されますので、内容に間違いのないよう、十分ご注意ください。

4. 問い合わせ先・提出先

本部広報グループ広報企画チーム
TEL：03-3811-3393 内線22031
E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

お知らせ

保健センター

8月の診療日程表

8月1日(水)～8月31日(金)の期間は、下表のとおり業務を行います。
 なお、各支所とも8月13日(月)・14日(火)は一斉休業のため、全業務休止となります。
 ※診療日程は、やむをえず変更となることがありますので、ご利用の際には保健センターホームページや掲示等で確認されるようお願いします。

■本郷支所 (03-5841-2574)

診療科等	診療日時	対象者
内科	月～金 10:00～12:00	学生・職員
精神神経科 (予約制)	月～金 10:00～13:00 14:00～16:00 ただし、6日(月)・17日(金)の飯田医師、 22日(水)の福田医師と、29日(水)の佐々木医師は休診	学生・職員
歯科口腔外科 (予約制)	2日(木) 10:00～12:00 7日(火) 13:15～15:00 9日(木) 10:00～12:00 21日(火) 13:15～15:00 23日(木) 10:00～12:00 (大木医師) 28日(火) 10:00～12:00 (門田医師) 29日(水) 10:00～12:00 (鳥山医師)	学生・職員
耳鼻咽喉科	3日(金) 10:00～12:00 8日(水) 10:00～12:00 10日(金) 10:00～12:00 15日(水) 10:00～12:00 17日(金) 10:00～12:00 22日(水) 10:00～12:00 24日(金) 10:00～12:00	学生・職員
学生健診追加項目検査	2日(木)・23日(木)・30日(木)いずれも9:30集合	学生
放射線取扱者健康診断	27日(月) 11:00～12:00	学生・職員

■駒場支所 (03-5454-6831)

診療科	担当医	診療日	診療時間
内科	上原	毎週 月曜日	10:00 ～ 12:30
	石川	毎週 火曜日	
	田中	毎週 水曜日	
	石川	毎週 木曜日	
	田中	毎週 金曜日	
精神神経科	坂本	毎週 月・木・金曜日の午前中	予約制
	佐々木	毎週 木曜日の午前中 (但し、30日は休診)	
	飯田	毎週 火・水曜日の午前中 (但し、22日は休診)	
	伊集院	6日(月) 午後、20日(月) 午後	
	滝川	1日(水) 午後、8日(水) 午後、15日(水) 午後 22日(水) 午後 (但し、29日午後は休診)	
歯科口腔外科	青柳	3日(金) 14:00～16:00	予約制
	大木	6日(月) 10:00～12:00	
	松崎	9日(木) 9:45～11:30 (矯正相談)	
	大木	20日(月) 10:00～12:00	
	青柳	31日(金) 14:00～16:00	
皮膚科		休診	
整形外科		休診	

■柏支所 (04-7136-3040)

	内科	精神神経科 (予約制)	対象者
月	10:00～13:00 14:00～16:00	10:00～13:00 14:00～16:00	学生・職員
火		10:00～13:00 14:00～16:00	
水		10:00～12:00	
木		10:00～12:00 14:30～16:30	
金		13:30～15:30	

(注意)

※8月20日(月)～23日(木)の精神神経科は休診となります。

※柏支所は、8月1日(水)から新棟保健センターに移ります。(電話番号は変わりません。)

人事異動（教員）

発令日、部局、職、氏名（五十音）順

発令日	氏名	異動内容	旧（現）職等
（退 職）			
19.6.30	伊藤 寿浩	辞 職（産業技術総合研究所グループ長）	大学院工学系研究科准教授
19.6.30	金 幸夫	辞 職（茨城大学理学部教授）	大学院工学系研究科准教授
19.6.30	福井 泰久	辞 職	大学院農学生命科学研究科教授
19.6.30	曲淵 英邦	辞 職	生産技術研究所准教授
（採 用）			
19.7.1	鈴木 光也	大学院医学系研究科准教授	
19.7.1	田村 智彦	大学院医学系研究科准教授	
19.7.1	暦本 純一	大学院情報学環教授	
（昇 任）			
H19.6.16	野田 優	大学院工学系研究科准教授	大学院工学系研究科助教
H19.6.16	加納 英明	大学院理学系研究科准教授	大学院理学系研究科助教
H19.6.16	平岡 秀一	大学院理学系研究科准教授	大学院理学系研究科助教
H19.6.16	高橋 明彦	大学院経済学研究科教授	大学院経済学研究科准教授
H19.7.1	古澤 明	大学院工学系研究科教授	大学院工学系研究科准教授
H19.7.1	牧野 義雄	大学院農学生命科学研究科准教授	大学院農学生命科学研究科講師
H19.7.1	恒吉 僚子	大学院教育学研究科教授	大学院教育学研究科准教授

※退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。

EVENT LIST

行事名	開催日	場所	連絡先・HP等
海洋研究所 一般公開 ※1360号参照	7月16日(月) 10:00~15:00 7月21日(土) 12:00~16:30	16日:国際沿岸海洋研究センター(岩手県上閉伊郡大槌町) 21日:海洋研究所	http://www.ori.u-tokyo.ac.jp/info/event/uminohi2007/
高校生のための金曜特別講座	7月20日(金) 17:30~19:00	駒場Iキャンパス 18号館ホール	URL: http://high-school.c.u-tokyo.ac.jp/index.html
社会科学研究所 CREP国際シンポジウム ※1360号参照	7月21日(土) 13:00~17:30	弥生講堂(一条ホール)	社会科学研究所 CREP事務局 TEL:03-5841-4874 FAX:03-5841-4905 E-mail:crep@iss.u-tokyo.ac.jp URL: http://project.iss.u-tokyo.ac.jp/crep/confj07.htm
創立130周年記念事業 東京大学堀場国際会議 「独創的研究の真髄:コンバーク親子から学ぶ」 ※26ページ参照	7月23日(月) 13:00~17:30、 24日(火) 11:00~17:30	安田講堂及び山上会館(7月23日) 医科学研究所1号館講堂(7月24日) 医学部教育研究棟14F鉄門講堂(7月24日) 弥生講堂(7月24日)	分子細胞生物学研究所 TEL:03-5841-7885 E-mail:imcbshom@iam.u-tokyo.ac.jp URL: http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/moldev/070723Kornberg.html
ナノフォトニクス総合的展開2007 ※1358号ページ参照	7月25日(水) 13:00~18:00 (開場 12:30)	武田先端ビル5F「武田ホール」	ナノフォトニクス総合的展開事務局 担当:田村 TEL:03-5841-1670 FAX:03-5841-1140 E-mail:symposium2007@nanophotonics.t.u-tokyo.ac.jp URL: http://uuu.t.u-tokyo.ac.jp/jpn/index.html
TREEシンポジウム「大学生とメディアの今を探る」	7月27日(金) 10:00~17:15	【ワークショップ1】駒場Iキャンパス17号館2F 【ワークショップ2】数理科学研究科演習室(B1)【シンポジウム】数理科学研究科大講義室(B1)	http://tree.ep.u-tokyo.ac.jp/
第1回DBELSワークショップin雲仙・普賢岳	7月27日(金)夕方~ 7月29日(日)正午(2泊3日)	長崎県雲仙市 雲仙観光ホテル	医学系研究科疾患生命工学センター分子病態医科学部門・東大病院教育研究支援部共催 E-mail:dbels@m.u-tokyo.ac.jp http://www.cdbim.m.u-tokyo.ac.jp/news/
第56回小石川植物園市民セミナー ※1360号参照	7月28日(土) 13:00~15:00	理学系研究科附属植物園日光分園(日光植物園)庁舎内和室	小石川植物園後援会 Email:koishikawa-koenkai@koishikawa.gr.jp
人と技術を用いた高等教育の バリアフリーカンファレンス2007	7月28日(土) 9:30~18:45 29日(日) 8:30~16:00	生産技術研究所総合研究実験棟	バリアフリー支援室内 人と技術を用いた高等教育のバリアフリーカンファレンス事務局 TEL:03(5452)5067 FAX 03(5452)5068 E-mail:aito@rcast.u-tokyo.ac.jp 担当:伊藤
地震研究所 一般公開・公開講義 ※26ページ参照	8月2日(木)10:00~16:00(研究展示) 13:30~15:40(公開講義)	地震研究所(研究展示) 弥生講堂(公開講義)	地震研究所アウトリーチ推進室 TEL:03-5841-5643 E-mail:openlec@eri.u-tokyo.ac.jp http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/KOHO/PANKO2007/
行事名	開催日	場所	連絡先・HP等
創立130周年記念事業特別展示 「遣丘と女神—メソポタミア原始農村の黎明」展	5月26日(土)~9月2日(日) 月曜休館(月曜祝日の場合は閉館、翌日休館) 10:00~17:00 (入館は16:30まで)	総合研究博物館 1階新館展示ホール	総合研究博物館 URL: http://www.um.u-tokyo.ac.jp/ (臨時休館の場合があるので、ホームページ要確認のこと)
文化資源学公開講座 「市民社会再生—文化の有効性を探る—」	6月8日(金)~平成20年1月11日(金)全12回 18:40~20:20	本郷キャンパス 法文2号館2階1番大教室	大学院人文社会系研究科文化資源学研究室 http://www.l.u-tokyo.ac.jp/CR-K/
常設展示「(新制)東京大学総長著作展(2)一平野総長から佐々木総長まで」 ※25ページ参照	7月5日(木)~9月26日(水)(7月26日(木)、8月23日(木)、9月9日(日)の休館日を除く)	総合図書館3階ロビー	附属図書館 http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/news/news/fuzokuto_07_07_04.html
夏期集中 生命・医療倫理学入門コース ※1359号参照	7月20日(金) 17:30~19:00	駒場Iキャンパス 18号館ホール	URL: http://high-school.c.u-tokyo.ac.jp/index.html
創立130周年記念事業「花蓮—歴史と夢—」 ※25ページ参照	7月21日(土)~8月10日(金)	安田講堂前広場(屋外展示)	

編集後記

人事異動に伴い、今月からこの学内広報の制作に携わることになりました。異動の話聞いて、まずは手始めにブルーベリーのサプリメントをネットで注文、デスクにはお泊りセットをのびせました。頑張りますのでよろしくお願ひします!(た)

今回から学内広報を担当させていただくことになりました。一人でも多くの人に楽しんでいただけるものをお届けしていきたいと思うので、どうぞよろしくお願ひします。その為にはまず体力をつけよう!と意気込む今日この頃です。(こ)

Contents

特集

- 02 本学ヨット部、世界選手権に出場！

NEWS

一般ニュース

- 06 本部総務グループ
本部事務組織体制の再編後の
各グループ主要業務
- 09 本部キャリアサポートグループ
知の創造的摩擦プロジェクト
第4回交流会開催
- 10 本部学生支援グループ
調理者研修会開催される
- 11 柏地区事務部
柏キャンパスに新食堂がオープン

部局ニュース

- 11 大学院法学政治学研究所・法学部、大学院公共政策学教
育部
留学生見学旅行を実施
- 12 大学院工学系研究所・工学部、大学院情報理工学系研究科
工学系等地震訓練が行われる
- 13 生産技術研究所
毒劇物を取扱う研究室にて所長巡視を実施
- 13 大学院人文社会系研究科・文学部
外国人留学生・外国人研究員等との懇親会
開催される
- 14 大学院総合文化研究科・教養学部
新横綱白鵬関、駒場訪問！
- 14 地震研究所
第3回APRU/AEARUリサーチシン
ポジウムー地震と津波に関するシンポジウ
ムーを開催
- 15 留学生センター
国立大学法人留学生センター
留学生指導担当研究協議会開催される
- 16 大学院総合文化研究科・教養学部
駐日米国大使特別講演会開催される

コラム

- 18 調達本部です 第31回
- 18 Step by Step東大基金通信 第3回
- 19 Crossroad～産学連携本部だより～Vol.20
- 20 インタプリターズ・バイブル Vol.7
- 20 コミュニケーションセンターだより No.37
- 21 龍岡門横丁断 第19回
- 21 Relay Column「ワタシのオシゴト」 第17回
- 22 噴水 教育学部附属中等教育学校で、
体育祭が行われる
教育学部附属中等教育学校の4年生
が歌舞伎教室に参加

INFORMATION

シンポジウム・講演会

- 23 教育企画室
TREEワークショップ&シンポジウム2007
のご案内 「大学生とメディアの"今"を探る」

募集

- 24 本部学生支援グループ
平成19年度第1回（秋）東京大学学生表彰
「東京大学総長賞」の募集について

お知らせ

- 25 附属図書館
常設展示「(新制) 本学総長著作展(2)ー
平野総長から佐々木総長までー」
- 25 本部学生支援グループ
第二食堂建物地下プールの特別公開について
- 25 大学院農学生命科学研究科・農学部
創立130周年記念事業「花蓮～歴史と夢～」
のご案内
- 26 分子細胞生物学研究所
創立130周年記念事業東京大学堀場国際会議
「独創的研究の真髄：コーンバーク親子から
学ぶ」
- 26 地震研究所
公開講義・一般公開のお知らせ
- 28 保健センター
8月の診療日程表

29 人事異動(教員)

30 EVENT LIST

淡青評論

- 32 我々は「教育者」か

- ◆ 表紙写真 ◆ 世界選手権への出場を果たした
本学ヨット部クルー
(2ページに関連記事)



七徳堂鬼瓦

我々は「教育者」か

定年を約1年半後に迎える者として、自分のことは棚に上げて、好き勝手なことを言わせていただく。

私を含めて今日の大学教員は教養や専門のための学術を教育していることは間違いないが、はたして何人の方が世で言う「教育者」を自認されておられるであろうか。「教育者」の語感には、人格／人間形成のための教育をなす者、人生の師となる人などを暗に意味するところがある。小・中学校の教員は「教育者」であることを目指しておられるであろうし、そうあ

って欲しいものと思うが、大学の教員には、その覚悟を持って今の職に就いた人がどれ程おられるであろうか。おそらく大半は優れた「研究者」になることを目標にされたことであろう。

理系の大学院では、学生は、修士課程で修了の場合は通常2年間、博士課程を修了する場合は通常5年間、指導教員の主催する研究室に所属し、指導教員の背中をみながら研究生を送る。学生は否応無しに指導教員の言動に影響され、研究以外の面でも教育されることになる。したがって、指導教員には「教育者」であることが求められることを自覚し、その覚悟が必要であろう。大学院進学が一般化した今日、この重要性はますます増大している。

最近博士課程に進学する学生を増やすことが強く求められている。しかし、博士課程進学に関する助言は、決して教員自身や教員の研究室の研究業績を上げるためのものであってはならない。「教育者」として、学生のためになるとの信念からのものでなければならない。特に、これから研究業績を上げなければならない若い教員には銘記して頂きたいことである。博士課程に進学した学生とは、10年後、20年後に、後ろめたい気持ちは微塵も無しに会えるようであればならない。

定年で東京大学を去る時に「あなたの最大の業績は何ですか」と問われたなら、「私の研究室で大学院を修了した学生たちである」と言ってみたくものである。(しかし、今からでは手遅れだな。)

藤田 隆史 (生産技術研究所)

(淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1361 2007年7月11日
東京大学広報委員会

〒113-8654
東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学本部広報グループ
TEL : 03-3811-3393
e-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
<http://www.u-tokyo.ac.jp>